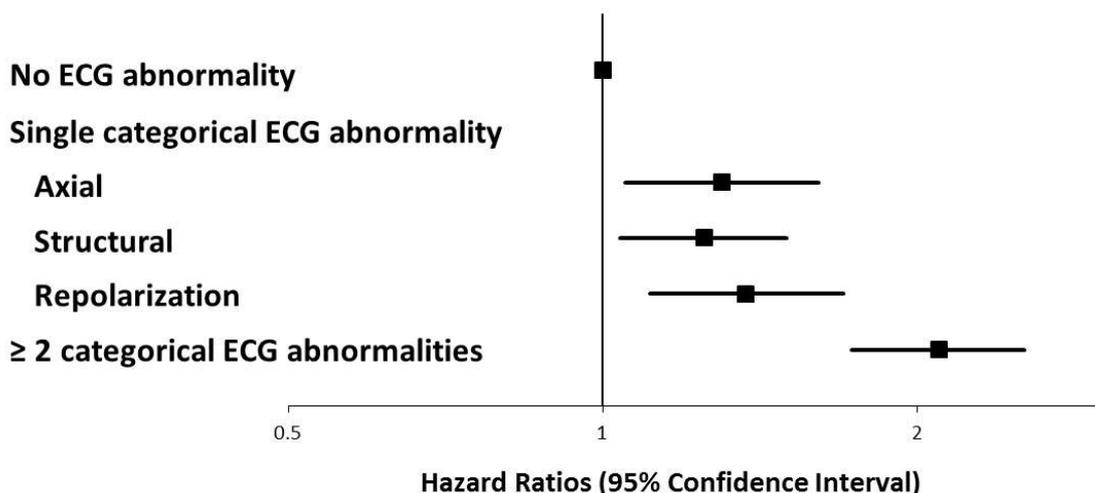


6 . 軽微な心電図所見の集積と長期循環器疾患死亡リスクとの関連

研究協力者 猪原 拓 (慶應義塾大学医学部循環器内科 助教)
 研究協力者 香坂 俊 (慶應義塾大学医学部循環器内科 専任講師)
 研究分担者 岡村 智教 (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授)
 研究協力者 渡邊 至 (国立循環器病研究センター予防健診部 医長)
 研究分担者 中村 保幸 (龍谷大学農学部食品栄養学科 教授)
 研究協力者 東山 綾 (国立循環器病研究センター予防医学・疫学情報部 室長)
 研究分担者 門田 文 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授)
 研究分担者 奥田奈賀子 (人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授)
 研究分担者 村上 義孝 (東邦大学医学部社会医学講座医療統計学分野 教授)
 研究分担者 大久保孝義 (帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授)
 研究代表者 三浦 克之 (滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授)
 研究分担者 岡山 明 (生活習慣病予防研究センター 代表)
 研究分担者 上島 弘嗣 (滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授)
 NIPPON DATA80/90 研究グループ

過去の研究から、安静時心電図における主要な所見だけでなく、軽微な所見 (ST-T 変化、左軸偏位、時計方向回転、左室肥大、左房拡大) も心血管予後と関連していると明らかにされてきたが、その影響は軽微なものであり臨床的に重要視されることはなかった。今回、我々は、日本国民を代表する集団のコホート研究である NIPPON DATA 80/90 のデータを使用し、安静時心電図における軽微な所見の積み重ねが心血管予後に相加的に影響していることを検討した。軽微な心電図異常を軸異常、構造的異常、再分極異常のカテゴリーに分類した場合、対象とした 16816 名のうち、3648 名が一つのカテゴリーの異常を有しており、555 名が2つ以上のカテゴリーの異常を有していた。解析の結果、長期的な心血管死亡は、カテゴリーの異常を多く有しているほどリスクが上昇することが明らかとなった。このことは、健康診断におけるスクリーニング検査としての安静時心電図の意義を再認識させるものであり、非常に示唆に富むものであると言える。



(*European Journal of Preventive Cardiology* 2014 Dec;21(12):1501-8.に掲載)